［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成　20　年　12　月　16　日

【評価実施概要】

事業所番号	２１７１３００５７３
法人名	医療法人社団 明星会
事業所名	グループホーム 明星
所在地	岐阜県加茂郡富加町夕田３７３番地 （電話）　０５７４－５４－２９９３

評価機関名	ＮＰＯ法人ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町３丁目７番地　尾関ビル		
訪問調査日	**平成20年12月2日**	評価確定日	**平成21年1月13日**

【情報提供票より】　（平成　20 年　11 月　10 日　事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　14 年　1 月　4 日		
ユニット数	1　ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤　7 人,非常勤　3 人,常勤換算　7.5 人	

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	1　階建ての　1　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	24,000～　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	200　円	昼食	400　円
	夕食	400　円	おやつ	昼食代に含む　円
	または1日当たり	円		

（４）利用者の概要　（平成　20 年　11 月　10 日　現在）

利用者人数	9　名	男性	0　名	女性	9　名
要介護１	1　名	要介護２	2　名		
要介護３	3　名	要介護４	1　名		
要介護５	2　名	要支援２	0　名		
年齢	平均　85.8　歳	最低	73　歳	最高	96　歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	大田病院、石原医院、天池歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境が豊かな地に立つこのホームは、開設から6年が経過しており、利用者への支援は「日常の生活の活動によるリハビリ」を目指し、介護度が進んでいく利用者への継続にも努力している。家族との連携も年を重ねるごとに密になり、訪問が多くなったり、年1回の1泊旅行に出かけ、利用者と共に過ごす時間を持つことができ、利用者の馴染みの美容院や同窓会に出かける等いままでのつながりを大切に暮らしている。運営推進会議の開催やJAとの連携、地域自治会準会員になる等地域でのホーム理解が進むよう働きかけ、地域との交流が進み、住民がホームの流しそうめん等の行事に訪れたり、利用者が地域の住民宅へ水仙や桃等の花見に訪問する交流も生まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	記録の記載方法や利用者にとって使い勝手が良いようにホームの改修工事が行われる等外部評価の課題への取り組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	職員全員で自己評価に取り組み、1年のケアの振り返りや新しい課題への気付きの機会としている。今回の外部評価受審後も、また、課題に向け取り組む姿勢がある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は2ヶ月に1回、ホームのリビングで開催し、利用者、利用者家族代表、地域の役員や行政、施設の関係者が参加し、ホームの運営状況や行事での様子、地域との交流等報告を行っている。体調に配慮しながら、外出機会を逃さないように支援しており、外出先での転倒事故が起きないように職員と運営推進会議で危険箇所の検討も行っている。会議の開催時ホームの昼食を試食したり、行事の様子をみてもらったりもしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	職員は、日常から家族との交流を大切にし、多くの機会をつくり家族の参加を呼びかけている。家族との関係は良く、気兼ねなく話せる関係作りに心がけ細かい配慮をしている。意見や希望は真摯に受け止め検討し、報告している。年1回、全利用者とそれぞれの家族での1泊旅行を計画し実施している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	運営推進会議や自治会の準会員、JAとの連携等で地域との交流のきっかけ作りに取り組み、地域との交流が深まってきている。地域住民にホームの行事へ参加してもらえることも多くなった。また、地域の人から季節の花見に自宅へ招かれる交流も生まれている。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさを大切にします」「安心と喜び、優しさ、ぬくもりを大切にします」「地域、家族の結びつきを大切にします」という理念を、職員間で話し合い、簡単明瞭なものにし、日々誇りを持って取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングで、管理者、職員は理念を唱和し、ケア提供の姿勢を確認している。職員が使用する部屋には管理者がホーム運営に関する方針を書いた評語や、本年度の実践指針「思いやり、心で見せるプロの技」を掲示し、日常からの意識付けを図っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や自治会の準会員、JAとの連携等で地域との交流のきっかけづくりに取り組み、地域との交流が深まっている。地域住民にホームの行事へ参加してもらえることも多くなった。また、地域の人から季節の花見に自宅に招かれる等の交流もある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には全職員で取り組み、自分達の日ごろのケアの振り返りとした。前回の評価結果については、課題や気づきを職員皆で検討し、改善に向け取り組んできた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の住民代表や役員、行政職員、利用者代表、利用者家族の代表、職員等をメンバーとし、2ヶ月毎にホームのリビングで開催している。ホームの昼食の試食、行事の様子を見てもらう等も行い、ホームへの理解が深まるよう意見交換以外にも工夫している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域で開催される地域ケア会議に参加し、行政からの情報を得ている。また、利用者の状態に応じた制度の説明を受ける等連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行するホーム便りの裏面を活用し、個別の日常の様子や報告、毎月の金銭出納報告を行うようにした。家族からも本人やホーム内の様子、金銭管理が分かりやすいとの感想がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日常から家族との交流を大切にし、多くの機会を作り家族の参加を呼びかけている。気兼ねなく話せる関係づくりに心がけている。意見は真摯に受け止め、検討し報告している。年2回、全家族で話し合う機会を持ち、1泊旅行にも協力がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近年は、法人内の異動も無く、職場配置も安定しており、利用者との関係もよい。	○	更には、重度化してくるいろいろな状況に対応するため、ケアの提供時間や方法の検討が今後必要になることから、そのことへの十分な職員間の意見の統一と職員の勤務時間帯における休憩の取り方の検討も課題とされたい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人主催で月2回開催する勉強会への参加を始め、外部研修への参加にも本人の希望をかなえられるように勤務を調整している。また、職員間での学びも大切にしている。運営者は「ご利用者の身体を預かっているだけではない、心も預かっていることを忘れてはならない」ことを職員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会への加入や地域のケア会議に参加し情報を得たり、交流を図っている。平成21年に開催する「ケア実践発表会」に取り組み事例を発表する等、ケアに積極的に取り組む姿勢がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の事例はほとんど無く、包括支援センターや居宅介護支援専門員からの紹介による入居が多い。徐々に馴染んでもらえるように、本人のペースや様子を見ながらゆっくり集団の中に馴染んでいけるよう、掛ける言葉や食事時の座る位置、相性等を配慮し、細かく支援している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者同士の経験が似ていることもあり、野菜の加工や生活の知恵を生かした作業を共に行う中で利用者と職員は共に支え合いながら利用者に教えてもらいながら作業を行い、楽しみを共有し、お互いの経験を活かし合っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思表示や入居時の聴き取り、家族からの情報を大切にすると共に、認知症が進み自己表出が困難になってきている場合には、表情や行動を注意深く観察し、あいまいなままにせず、職員間で情報を持ち寄り、本人の気持ちを思いやる工夫をしている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者にいつも話しかけ、コミュニケーションの中で、以前できていてできなくなってきていることの観察を行い、職員間で報告・検討している。家族との連絡を密に行い、週3回訪問し健康相談を行う法人の看護師、週1回往診のある協力医等多くの意見を集約し反映させ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、3ヶ月に1回、検討し見直している。急な変化が起きた場合は、随時の計画変更を行っている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の行事などに参加できる機会を提供したり、法人の車や人材の協力で年1回の1泊旅行が可能となっている。家族の都合が悪い場合の受診支援や緊急時の受診支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は入居前からのかかりつけ医との関係が継続している。協力医の往診が週1回あり、健康管理を行っている。受診は家族に依頼しているが、緊急時や家族の都合が悪い場合は支援している。入院や救急時における総合病院との協力体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用期間が長くなった利用者があり、年齢や身体機能の面から配慮が必要なことが多くなったが、適時受診したり法人看護師に相談し対応している。これまで緊急の入院での対応があったが、ホーム内での終末期対応については、勤務する職員の数や専門職の配置から現在はできないとしている。	○	今後の利用者の加齢に考慮し起こりうることへの対応を検討している。ホームでどこまでできるかどのように対応できるか、利用者、家族と合意を図るための対応の検討も始めているため、より具体的な指針がつくられることを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として敬う支援を、職員間で話し合い行っている。ふさわしくない言葉使い等、お互いに気が付いたときには注意し合っている。個人情報は職員しか入らない場所に保管し、写真掲示は家族に説明し同意を得て行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9人のユニットであるが、一人ひとりの気持ちや希望を尋ね、無理にすすめないことにしている。作業の仲間に入れなくなった人には、側で座って見ていてもらったり、孤独にならないよう少し離れた所で本人のペースで過ごしてもらう等の対応で支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、調理や片付け等のできることを積極的に参加している。包丁の取り扱いも見守りながら、使えるよう支援を継続している。お茶、漬物、干し野菜など手作りの食材を多く作り、料理に活用している。味や作り方、散歩や外出、行事など会話も多く、利用者、職員の楽しい食事の光景がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう準備しており、週3回程を目安にしているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。排水のよい床材や脱衣室の隣にトイレを設置する等構造上の利用者への配慮もある。	○	今後、身体機能の低下による風呂のまたぎが困難になることも考えられる。どのように対応できるか、支援していくかの検討も課題となるため、取り組みが期待される。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴の中で馴染んだ野菜収穫後の皮をむく、小さく切る、さく、縛ってつるす、漬けるなどできる部分で参加し、作業を皆で行っている。音楽療法や季節の行事、弁当を作っての散歩など多くの楽しみがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の第一の楽しみは外出であるため、利用者の希望や家族との相談で外出を実施している。家族と共に出かける1泊の小旅行は法人の協力もあり、本年度も全家族の参加で実施でき、楽しい時間を過ごした。	○	月1回の弘法参り、喫茶店のモーニング、母体法人での催し、近隣の散歩、夜景のイルミネーションドライブと介護度が重くなっても外出支援を工夫している。今後、課題も出てくるであろうが対応やリスクを検討し、支援が継続されることを期待したい。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各場所の施錠は一般家庭と同じようにしている。ホーム内の空間は広く、採光も良く明るく開放的で圧迫感も無い。薬剤等配慮のいる品のある洗濯室は、使用時以外は施錠し利用者への安全に配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は毎月誘導の練習を兼ねて行い、訓練後、誘導した庭先でお茶を飲む等楽しんでいる。災害時に地域からの協力が得られるよう、JAとの連携や自治会との協力体制づくりができており、ホームも工夫している。	○	夜間を想定した訓練を検討中であるが、勤務以外の者への連絡状況や利用者にどのような支援が必要かの把握、夜間における誘導時間を実測してみる等具体化に向けた取り組みが期待される。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの開設間もない時期に職員は一丸となってカロリー計算を学び、食事の栄養バランスを考えてメニューを作成している。どくだみやゴーヤ等を用いたお茶を作り便通を整える等の配慮をしている。お茶はいつでも飲めるよう用意し、促してもいる。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木製のベランダは、利用者と共に作業やバーベキュー、布団干し等に活用している。ベランダの出入り口には、ソファーがあり、利用者が洗濯物を畳んだり、くつろいでいる。リビングに続く広々とした台所は利用者が自由に出入りでき、広い空間は生活でできるリハビリの場として意識し、活用している。トイレの扉は横開に改善された。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	開設以来の利用者もあり、居室内は家族の協力で搬入されたそれぞれの備品でその人らしさのある居室となっている。家族写真や位牌、趣味の作品等に加え、小さな冷蔵庫やゆったりできる椅子、花等もあり、家族の訪問が多い様子も居室から感じられる。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。